

議長のご指名を頂き、公明党議員団を代表しまして、平成18年度の岡本市長の市政方針に対する代表質問を行います。市政施行50周年の節目の議会であります。新たな50年へに向けてのスタートの年でもあります。この質問が、この議論が、新たな大東市の街づくりになりますことを強く要望いたしまして質問を行います。

最初に今回の岡本市長の市政方針や18年度予算の中で、公明党議員団の要望を多数実現していただきました。私達公明党議員団は、平成17年に開催されました4回の定例会市議会では全員が一般質問・委員会質問を行いました。18年度の予算要望では87項目の要望を提出致しました。9月議会では「地球的環境施策推進の街、大東市の実現を求める請願書」を提出し、全議員の賛同も頂きました。また、「子どもの安心・安全」「ダイオキシン問題」「談合問題」など三回の緊急申し入れも行ってまいりました。これらの日常の議会活動が実り、要望事項の多くが実現することとなりました。その一部を紹介いたします。

生涯学習センターのオープン、  
西部図書館の開設、  
自治基本条例の市民周知のための特集冊子の全戸配布、  
男女共同参画ルームの開設、  
50周年、お祝いメッセージ「一筆啓上」の実施、  
自動体外式除細動器(AED)の市内4箇所での設置、  
学校図書充実のための「教育文化基金」の創設、  
児童手当の小学校3年生から小学校6年生までの拡充、  
乳幼児医療費助成制度の所得制限の撤廃、  
出産一時金の30万円から35万円への増額  
高額医療費の窓口払いの負担の軽減  
東諸福公園でのスポーツ広場の整備、  
四条巖駅の構外エレベーターの設置、  
水路の水環境整備のための「せせらぎ水路等整備計画」の策定、  
アスベスト問題への安全対策、  
住道駅周辺の駐輪場対策としての住道駅中央自転車駐車場の整備、  
防災公園としての大東中央公園の整備、

生ゴミ処理機の補助制度の50台までの拡大など、  
数多くあります。

岡本市政の与党の一員として、岡本市政を支えながらも、言うべきことはしっかり述べてまいりましたことが、このような結果となりましたことを、まずもって心より御礼を申し上げたいと思います。そのような中であえて、岡本市長のトップ判断が必要とすべき施策について、市政方針に沿って質問を行いたいと思います。

## **第四次総合計画・基本計画の見直しについて**

・第4次総合計画の基本計画の見直しについてお聞きします。

基本計画に新たに、「市民の生命・身体・財産を守るための危機対策」と「子育てに不安・負担を感じさせない社会の形成」の2つの課題が追加されましたが、この問題は以前から存在した課題でもありました。このことが追加されたのは大東市の行政が、この2つのことを大事に考えていなかったのか。それとも基本計画は必要に応じていくらでも変更・追加ができる軽い計画なのでしょうか。

基本構想・基本計画は大東市の街づくりの基本であります。市長は市政方針の中で「まさに生き残りを賭けた都市間競争時代の到来であり、危機感を持たねば、大東市の存続さえ危うい状況だと言っても過言ではありません」と述べられています。大東市の街づくりの根幹の基本計画がこのような軽い状況ならば、すでに都市間の競争に負けている大東市の現実があります。

現在、議会や市民の中で議論が行われている、新駅を含む市内東南部の街づくりについても、今回の改正で取り上げるべきでありました。この地域は、産業大学・桐蔭高校・野崎高校などの教育ゾーン、阪奈病院・野崎病院などの医療ゾーン、扶桑薬品・中北製作所・阪奈自動車教習所・船井電機などの企業ゾーンなどが点在していて、商店街や住居が集中する、住道駅・野崎駅・四條畷駅とは違う、新たな街づくりができる空間であります。今回の基本計画に盛り込まれていません。守口市では、大日の三洋電機の跡地に、大手のスーパーと映画館も併設され、40階建てのマンションが3棟建設されると聞いています。東大阪市では3月27日に開通する、長田から生駒市への「けいはんな線」の開通の影響で、大阪市から東大阪市内へ本社・工場の移転が進んでいるとのこと。また、東大阪市の市役所のある周辺が副都

心構想としての現実味をおびてまいりました。

その間に位置する大東市、何を街づくりの基本にするのか。このままでは本当に埋没してしまいます。市長は、大東市の活性化のためにも、新駅設置などの新しいビジョンに対してどのように考えているのでしょうか、また、市内東南地域の街づくりについても、どのように考えているのかお答えください。

街づくりへの基本計画に関連して、もう一点、交通網の整備についてお聞きします。門真市駅から南進するモノレールの建設について、市長はその必要性和大東市にとってどのような位置づけを持っているのか、見解をお聞かせ下さい。「大阪中央環状モノレール建設促進会議」では南進への要望書を各市長と連名で提出されていますがモノレール南進への岡本市長の考えをお聞かせください。

基本計画での、自然を活用した新たな街づくりの一環として、龍間地域の大阪府との第二期工事はどのようになっているのか。また、新たなビジョン、魅力ある街づくりとして、阪奈道路の大阪を見通せる場所に「道の駅」の設置の促進を提案しますが、市長の見解をお聞かせください。

17年度に試行の結論が出ます巡回バスについて、公共施設巡回のためにも、西部図書館への巡回バスの運行を実現して頂きたいと考えますが答弁をお願いいたします。

市内東南部地域の街づくりについて

・新駅設置への考え

モノレール南進への見解

大東市の新たな街づくり構想

\*龍間地域の第二期工事

\*「道の駅」構想の促進

\*巡回バスの西部図書館コースの設定

## 50周年事業

・50周年記念事業についてお聞きします。

文化、スポーツで功績を残された方々に対して記念表彰が行われると聞いています。市長は基本姿勢で「過去の継承と未来への発展」「先人達の軌跡を辿(たど)りつつまちづくりに懸ける志を引き継ぐ」と述べられています。

大東市のために生命を捧げられた先人達を顕彰することは、50周年の大事な事業であります。その最大の顕彰である「名誉市民称号」の授与が行われないことはたいへんに残念であります。「名誉市民」の称号は軽いものではありませんが、重たすぎるものでもありません。50周年の節目に実施できないならば、今後、二度と大東市においては行われたいと思われません。今からでも遅くはありません、今年の50周年事業の一環として、過去の市長・議員経験者、教育関係者、商工会議所などの企業関係者、文化・芸術・スポーツ関係者、地域活動など、50年の長きにわたり大東市に関わった人に対する「名誉市民称号」の選考と授与の実施を、再度市長に求めますが考えをお聞かせください。

これまでも50周年事業は市民参加型で実施すべきだとの述べてまいりましたが大きな行事・イベントは発表されていますが13万市民が大東市の50周年を祝う機運については市民の中にまだまだ浸透していないように思われます。市民参加型の50周年事業として今後どのようなことを計画されているのかお答えください。

名誉市民称号の授与について  
市民参加型の50周年事業

## 文化・スポーツ振興について

文化・スポーツの振興についてお聞きします。

まず文化の振興についてお聞きします。

ハード面での施策の充実に限界が見えてまいりました。これからは目に見えない施策としての、文化を施策の中心にすえた街づくりが主流になると考えられます。市長は常々文化・スポーツの振興と言われますが、具体的に大東市における文化の振興とはどのようなことをされるのか、市民にわかりやすい言葉でお答えください。また、文化施策を推進するためにも、文化振興課の設置を要望・提案いたしますが答弁をお願いいたします。

また、市内に在住の方々を中心に文化・芸術の専門家・プロの方々による、「作品展」の開催を、今年50周年事業としてスタートし、毎年開催されますことを提案いたしますがお答えください。

市内の小中学校の児童・生徒に文化・芸術に親しむ機会をより多くするための予算的措置の拡充も、提案いたしますがお答えください。

3月は大阪場所で賑わっていますが、古来からの「相撲」もスポーツよりも文化の伝承と考えられます。3つの部屋がきている大東市では「相撲」の文化についても取り組むべきだと考えますが市民との交流など、考え方をお聞かせください。

スポーツの振興についてもお聞きします。

身近な公園や公共的場所でのスポーツ振興を進めるためにも、その環境整備を行うべきではないでしょうか。大きな施設の建設ではなく身近な地域のスポーツ環境の充実についての見解をお聞かせ下さい。また、受益者負担の原理から、屋外運動施設も将来有料化を考えているのか、岡本市長の見解をお聞かせ下さい。

文化振興施策

文化振興課の設置

専門家による、文化・芸術作品展の開催

児童・生徒の文化・芸術に親しむ機会や予算の拡充

「相撲」文化への取り組み

身近なスポーツ施設の充実と使用料の有料化について

## **教育施策について**

教育施策について何点かお聞きします。

始めに教育センターについてお聞きします。我が党は、平成8年度の予算要望で4つのセンター構想を掲げました。その中の「生涯学習センター」「女性センター」については一部開設される事になっていますが、「防災情報センター」と「教育研修センター」についてはなかなか見えてまいりませんでした。今回の岡本市長の市政方針で「教育センター」の創設を掲げられましたことは大変喜ばしいかぎりであります。教育相談だけでなく、先生の研修もできる施設になることを希望いたしますが、その創設に向けての概要をお答えください。また、学校図書の実を訴えてまいりました、公明党議員団の主張を取り入れていただいて、創設されます「教育文化基金」に大変期待いたしております。「被害者をつくらない教育から、加害者を出さない教育への転換」は大変大事であります。特に良書(良い本)に親しむことは大切であります。へいを高くしたり、防犯ベルを持たせたり、ガードマンを配置するなどでの子どもの安全対策には限界があります。そのためにも「朝の読書

運動」、「読み聞かせ」など、学校図書の効果을最大限に生かすためには、専任の司書が必要であります。先生の兼務でない学校図書館への司書の配置を今回の基金で実現されますことを提案いたしますが市長の見解をお答えください。また、教育には多くの予算が必要ですが、行政・自治体の予算にも限界があります。少子化の時代、児童・生徒の減少にともない学校の適正配置を考えた検討も行わなければならない時代になりました。統廃合の検討委員会が設置され、現在議論を行っていますが、岡本市長は学校の統廃合についてはどのように考えているのか、見解をお聞かせください。

教育センターの創設

教育文化基金の有効活用

・専任の学校司書の配置

学校統廃合

## **環境問題**

環境問題についてお聞きします。

今議会にも「環境基本条例」が提案されていますが、環境問題は大東市だけでできることではありませんが、大東市を含めた自治体がしっかりやらなければ環境問題は解決しません。行政の責務とともに市民の負担の部分も出てまいります。まずはじめに、今回粗大ゴミの有料化を打ち出されていますがその内容についてお答えください。また、ゴミの減量化、そして有料化についてもお聞きします。多くの市民がゴミの分別については大変不満を持っています。もっと分別をすべきではないか、もっとリサイクル化を進めるべきではないか。これらが進まなければゴミの総量は減りません。市長はゴミの減量・分別の拡大、そして一般ゴミの有料化についてどのように考えているのかお聞かせください。それとともに、ゴミ処理の経費が毎年高くなっています。市民には負担を行わせて、行政は努力しないでは市民の理解が得られません。経費負担の多い収集業務についてはさらなる競争の原理を導入して、経費の削減をすべきだと考えますがお答えください。

粗大ゴミの有料化について

ゴミ減量・分別と一般ゴミの有料化について

ゴミ関係予算の軽減化と収集業務経費の削減

## 行財政改革

・行財政改革についてお聞きします。

今年度予算で人件費が12億円削減されましたが、今後の人件費の推移はどのようなのでしょうか。団塊の世代が退職する今後の職員定数の管理はどのように試算されているのか。また、市民千人に対する職員の人数を府下の最低であります羽曳野市・河内長野市の6名を基準にしますと現在の計画よりも約100名少なくなってくることが予測されます。団塊の世代の退職を含んだ、今後の職員定数の推移と人件費の抑制についてお答えください。

今議会にも指定管理者の条例が提出されていますが、市民サービスの向上を目指すためには思い切った民間委託が必要と考えています。市長も「民に委ねるものは思い切って委ね」と述べられています。しかし、12月議会にもありました、例外をつくりますと例外が増えてくる可能性があります。同時に指定管理者で行っていることのメリットを、毎年しっかりチェックするシステムも考えなければなりません。保育所についても民営化を述べられています。いつからどこの保育所から行うのかお答えください。また、総合文化センター(サーティーホール)の駐車場の有料化を上げられていますが、同じように指定管理者になっている、市民会館の駐車場はどうなるのでしょうか、市役所の駐車場とともにお答えください。

市民の負担をとまなう行財政改革について、どこまで市民負担は拡大するのか。行政は何を努力しているかをしっかりと市民に説明しなければ、大東市民の皆様は理解は得られないと考えます。大東市は行政のさらなる行財政改革として、今年の12月議会でも質問しました「事業仕分け」などを活用して、「何を残すのか、何を廃止するのか、何を民間に委託するのか」人件費以外での大東市の行財政改革の具体的方向性をお答えください。

今後の定数し人件費の抑制

出先機関の委託化=指定管理者

市民負担と今後の行革について(事業仕分け)

リーダーは常に情報を共有し、意見を交換しながら、良き知恵を出し合って、的確な改革を行わなければなりません。

イギリスの歴史学者、トインビー博士は「変革の必然性に対処する建設的な方法は、変革ぬきさしならなくなってくる以前に、自発的に変革を行うこ

とである。我々が行動を起こすのが早ければ早いほど、我々の選択の範囲は広くなるだろう」と述べています。

また、先日開催されました「生涯現役セミナー」の講演会で元・吉本興業の木村政雄さんは「リーダーはビジョンを持たなければならない」とも述べていました。

激変する時代に対応するためには、ワンマン的リーダーではなく、市民や職員の意見を良く聞き、より多くの人材を適材適所で配置し、個性を生かすことができる人こそが、現在におけるリーダー像であるとも考えられます。

岡本市長は大東市 13 万市民の現在の・未来の「幸福責任者」であります。大変な激務でもありますが 50 周年の佳節に市長の責を行われている事を最大の人徳と考え、さらに精進されますことを要望しまして、私の代表質問と致します。

再質問の権利を留保して降壇いたします。